草の根技術協力(草の根協力支援型)案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	ドミニカ共和国
2. 案件名	サンチェス・ラミレス県における大学・地域間協働による6次産業化推進
3. 事業の背景と必要性	ドミニカ共和国の農村では、若者の離農・離村が進み始めている。この問題は、新規
	農作物の導入や生産性の向上など第1次産業である農業面からのアプローチのみでの
	解決は難しい。農村で若者を引きつける仕事の創出が必要である。そのために有効な
	アプローチは、農業(1 次産業)、加工業など(2 次産業)、流通・販売など(3 次産業)を
	掛け合わせた6次産業化の推進である。問題が深刻化する前に若者を引きつける仕事
	の創出により離農・離村を阻む必要がある。
	本事業では、シバオオリエンタル工科大学(UTECO)において、教員・学生が農村の人々
	と協働して、6 次産業化の育成に取り組む。高知大学の地域協働学部は、高知県の農
	村部の6次産業化に実習を通じて積極的に取り組んできた実績を有する。同学部の6
	次産業化推進のノウハウを UTECO に移転することにより、地域課題解決と同時に人
	材育成を図る。
4. プロジェクト目標	大学と地域の協働により6次産業化の調査と計画策定および試行がなされ、関係者に
	6 次産業化の進め方と有効性が理解される。
5. 対象地域	ドミニカ共和国サンチェス・ラミレス県
6. 受益者層	直接受益者: サンチェス・ラミレス県の若者層の農民 30 人程度、シバオオリエンタ
(ターゲットグループ)	ル工科大学(UTECO)で本事業の大部分にかかわる教員・大学生 10 人程度(教員 5
	名程度、大学生 30 人程度)
	間接受益者:サンチェス・ラミレス県の農業世帯 300 世帯、UTECO で本事業に部分
	的・間接的にかかわる大学職員・大学生 30 人程度
7. 生み出すべきアウト	<アウトプット(成果)>
プット及び活動	・成果 1:ドミニカ共和国の 6 次産業化推進に役立つ事例について学び、6 次産業化
	について理解され、そのローカライゼーションが検討される。
	・成果 2: UTECO と高知大学による合同調査がおこなわれ、6次産業化の実践に向け
	た計画が策定される。
	・成果 3:策定された計画の(部分的な)試行がなされる(商品開発など)。
	<活動>
	・成果1を達成するための活動
	活動 1-1: UTECO とともに現地概要調査とワークショップを実施する。
	活動 1-2:6 次産業化についての日本での研修を実施する。
	・成果2を達成するための活動
	活動 2-1 : UTECO 教員・学生とともに本格合同調査を実施する。
	活動 2-2:6 次産業化関係者とのワークショップ開催と実践計画書策定を行う。
	・成果3を達成するための活動

	活動 3-1:6 次産業化実践計画の(部分的な)試行を行う。	
	活動 3-2:事業振り返りワークショップを開催する。	
8. 実施期間	(西暦) 2025年11月~2027年2月(1年3ヵ月)	
9. 事業費概算額	9,795 千円	
10. 相手国側実施機関	ドミニカ共和国シバオオリエンタル工科大学(UTECO)	
(カウンターパート)		
Ⅱ. 団体の概要		
1. 実施団体/指定団体	国立大学法人高知大学地域協働学部	
2. 主な活動内容	高知大学地域協働学部は、2015 年に全国の大学に先駆けて新設された。高知県内に	
	ある 15 ほどの実習地において、教員と学生が地域の人々と協働し 6 次産業化などに	
	より地域課題の解決に取り組んでいる。	